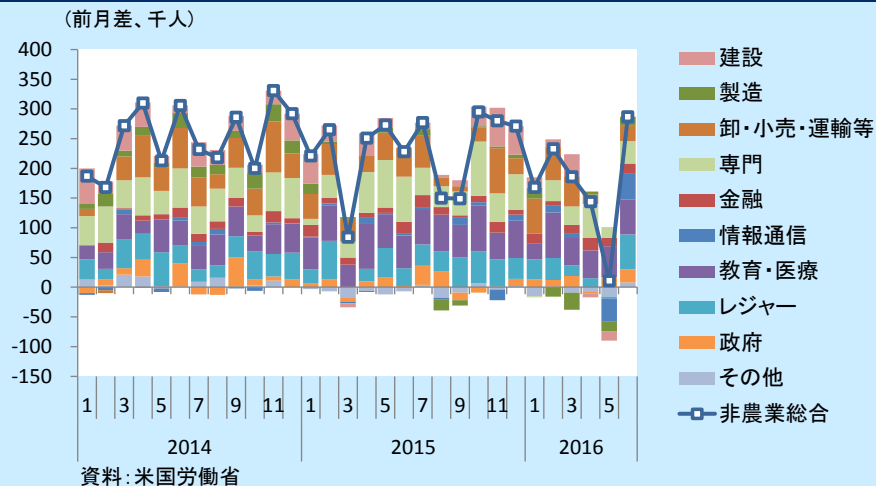


米国：雇用統計（2016年6月）

一前月からの反動で雇用者数は大幅に増加

MRI Daily Economic Points
July 12, 2016

図表1 非農業部門雇用者数

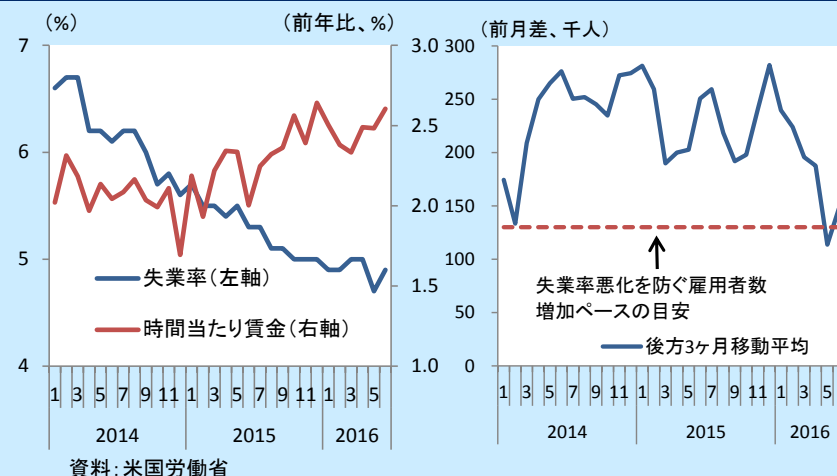


評価ポイント

今回の結果

- 16年6月の非農業部門雇用者数は、前月差+28.7万人増と、15年10月以来の大幅な増加となった。米通信企業のストライキ終了により3.5万人分押し上げられたほか、サービス業を中心に幅広い業種で雇用者数が増加した。
- 内訳をみると、教育・医療(同+5.9万人)で大幅な増加が続いたほか、前月に雇用者数が減少または低い伸びにとどまったレジャー(同+5.9万人)、情報通信(同+4.4万人)、専門・ビジネスサービス(同+3.8万人)、小売業(同+3.0万人)で増加幅が拡大。一方、シェール関連産業を含む鉱業・林業(同▲0.5万人)は、14年10月以降、減少が続いている。
- 6月の失業率は4.9%と前月(4.7%)から上昇した。もっとも、非労働力化していた者が職探しを始め、労働市場へ再び参入したことが主因。
- 時間当たり平均賃金は前年比+2.6%と前月から伸びが小幅上昇。失業率の低下とともに 15年以降、賃金の伸びが高まりつつある。

図表2失業率・時間当たり賃金 図表3 雇用者増のトレンド



基調判断と今後の流れ

- 6月は大幅な増加となり、5月の数字ほどには雇用環境が悪化していないことが確認された。もっとも、16年以降、雇用者数の増加ペースは鈍化している。非農業部門雇用者数は直近3ヶ月で月あたり+14.7万人増と15年(同+22.9万人)から増加ペースは鈍化。失業率の悪化を防ぐ雇用者数をわずかに上回るペースにとどまる。
- 背景には、①失業率が長期均衡水準(4.8%前後)まで低下したことで雇用者数が伸びにくくなっていることに加え、②ドル高や海外経済の減速を受けて企業の採用姿勢がやや慎重になっていることがある。
- 先行きも、底堅く推移する内需が下支えするものの、上記の要因により、雇用市場の改善ペースは15年に比べて鈍化するものと見込む。また、英国のEU離脱に伴う不確実性の上昇や、ドル高の進行による企業利益の減少などにより雇用の改善ペースが一段と鈍化する可能性には注意が必要である。